

会 議 録

| | | | |
|--------------------|---|---|-----------|
| 会議の名称 | 平成29年度第4回 病院運営審議会 | | |
| 開催日時 | 平成29年(2017年) 11月9日(水) 13時30分 ~ 15時30分 | | |
| 開催場所 | 市立豊中病院 講堂 (管理棟5階) | 公開の可否 | 可・不可・一部不可 |
| 事務局 | 市立豊中病院 総務企画課 | 傍聴者数 | 0人 |
| 公開しなかつた理由 | | | |
| 出席者 | 委員 | 天野陽子、上西晟子、角本典子、澤村昭彦、高鳥毛敏雄、多田耕三、浜田恭介、深谷和代、真鍋哲也、渡邊太郎 | |
| | 事務局 | 病院事業管理者 小林栄、総長 眞下節、病院長 堂野恵三、副院長 東孝次、副院長 嶺尾郁夫、副院長兼看護部長 藤田幸恵、医務局長 巽千賀夫、薬剤部長 村田充弘、事務局長 小杉洋樹、看護部次長 木本正美、医療安全管理室長 中上紀子、事務局次長兼総務企画課長 朝倉敏和、医事課長 中村卓、施設用度課長 津川昌夫、がん相談支援センター長 細貝徳子、地域医療室長 甲斐智典、栄養管理部長 中井智明、地域医療室主幹 下雅意陽子、医療安全管理室主幹 杉山眞紀、総務企画課主幹 鷺見一馬、総務企画課主幹 城戸篤、総務企画課長補佐 入江基宏、医療情報室長補佐 櫻田靖之 | |
| | その他 | | |
| 議題 | (1) 「新たな病院運営計画(素案)(答申案)」について (2) その他 | | |
| 審議等の概要 (主な発言要旨) | 別紙のとおり | | |

病院運営審議会（審議等の概要）

●委員の出席状況と審議会成立の報告

全委員11人中10人出席、本審議会成立を報告

●傍聴希望申込みの許可

傍聴希望者なし

●議案審議

- 1) 「新たな病院運営計画（素案）（答申案）」について
- 2) その他

●審議結果

1. 現運営計画（平成25年度～平成29年度）と実施計画の構成について事務局より資料に基づき説明

2. 市立豊中病院運営計画（素案）（答申案）について事務局より資料に基づき説明

《質疑応答・意見等》

1. P. 28の「3. 職員のモチベーションの向上」に記載されている資格取得の推奨は、今後施設基準を取得するなど病院運営の方向性を踏まえたものなのか。また、資格の具体名を入れてはどうか。

現在、専門看護師、認定看護師の資格取得の推奨などを実行しており、今後も支援する方向で考えている。また、医療スタッフの学会への参加費の手当てなども考えている。具体的な内容については実施計画に記す予定である。

2. P32の指標について、平均在院日数11日以内という目標と病床利用率90%の兼ね合いをどのように考えているのか。

低侵襲の治療の推奨、早期リハビリの実施、退院支援などにより在院日数の短縮を図る一方、新規入院患者数の確保に向けた取り組み等により、病床利用率の確保に努めるものである。

3. P. 32の指標について、平均在院日数を目標に設定するのはなぜなのか、

同表に病床利用率の目標も掲げている。単に病床利用率を上げるだけであれば、平均在院日数を延ばして病床利用率を上げることもできるが、当院の目標はその意味ではないことを示すため平均在院日数にも言及している。また、DPCへの対応等も含めて平均在

院日数を短縮することは医療政策でも求められている。

4. P32の指標の救急車の搬送受入数については、受入要請数に伴って変動するため、受入率（応需率）などを設定すると良いのではないか。現在の6,300人というのは要請に対する受入率100%に近いのか。

救急搬送受入件数も救急搬送の応需率も有効な指標であるが、受入数の方が具体的でわかりやすいことと、過去の数値と比較できるという意味で、受入件数を目標として設定している。

なお、全ての受入要請に対応するためには、現在の当院の体制では難しい。

5. P32の指標について、紹介率・逆紹介率の目標値が妥当か否かについて、説明してほしい。

ここ数年の紹介患者数、逆紹介患者数の状況を踏まえて設定している。近年横ばいであるが、さらに伸ばしていくべきだという考え方から、5年後に80%としている。

6. 目標値を全て達成した場合、繰入金がなくとも黒字化は可能な数値になっているか。平均在院日数について、国の政策の中では急性期病床は9日と言われている。また、近年では逆紹介率100%超の病院も出てきつつある。

平成28年度の診療報酬改定により多くの病院で経営悪化していることが報道されている。公立病院は国や住民から求められている役割などがあり、機能分化して効率的に医療を提供し、これからの超高齢化社会を乗り越えていかなければならない。

このような中で、マンパワー確保や施設設備の老朽化問題など経営的な観点も踏まえて、今回の目標を設定した。

7. P.22の「2. 専門職の確保」において、民間から医事専門職員を採用し、大きな成果があったと書かれているが、具体的にはどのような成果があったのか、どのような形で活動されているのか。

当院には医療事務専門職が3名おり、市の人事異動によって定期的に異動する職員では対応が難しい診療報酬改定（2年に1回行われる）への対応やDPCの分析等を行っている。記載内容については、わかりやすいように修正する。

8. P.27の「1. 病病・病診連携の強化」の修正箇所について、文章が丁寧になり過ぎて逆にわかりにくいように思う。

わかりやすい表現に記載内容の見直しを検討する。

9. 用語解説を各ページの欄外に付けるのではなく、巻末に集めたのはなぜなのか。

用語1つ1つの説明量が多いことや、1項内に複数の用語解説が生じる場合があること、
図表との配置の兼ね合いなどを総合的に判断して、巻末の配置にしている。

3. 市立豊中病院運営計画（素案）（答申案）について承認

4. 答申について事務局より説明

《質疑応答・意見等》

1. 市長に答申をするにあたり、作成した新運営計画によって市民にどのようなメリットが発生するのか等を、答申の文面に記載する必要があると思う。

答申をする際は、答申書および運営計画を単に手渡すだけでなく、委員長がどのような意見や質疑応答を踏まえて策定したのか、委員の思いなども含め、市長に説明します。

5. 最後に

- ・ 本日の意見を踏まえた市立豊中病院運営計画（素案）（答申案）の修正の確認は委員長に一任する。
- ・ 市長への答申は平成29年11月下旬を予定。
- ・ 次回、病院運営審議会の開催は平成30年2月を予定。

<以上、終了>